

2019年7月18日

お客様各位

一般社団法人 日本テールアルメ協会

日経 XTECH（クロステック）及び日経コンストラクション掲載記事に対する見解書

1. 概要

2019年7月3日付日経 XTECH 及び7月18日付日経コンストラクションに、国土交通省八ッ場ダム工事事務所発注の補強土壁（テールアルメ工法）において、出来形管理基準値を超えるはらみだしが発生した記事が掲載されました。原因は、施工中の土質変化（ダンプトラックが走行出来ない盛土）を把握していながらそのまま工事を続けていたためとの記載となっております。

2. 本件に対する見解

テールアルメ工法に使用すべき盛土材料の条件は、道路土工指針¹⁾ 及び「補強土（テールアルメ）壁工法設計・施工マニュアル²⁾」で規定されております。テールアルメ工法の性能を正しく発揮させるため、施工時には正しい盛土材料を使用し、施工中に盛土材料の変更があった場合には都度、盛土材料の性状を確認することが定められております。

当現場のはらみだしの要因は、細粒分が非常に多い盛土材料を使用し、トラフィカビリティを確保出来ない状態でありながら、施工をし続けたことにあります。補強土壁にとって盛土材料は出来形を左右する大きな要素となりますので、ご使用いただく際には十分な盛土管理を行っていただけますようお願い致します。

現在は、変状箇所である壁面全体の4割に当たる約640㎡を撤去し、規定内の盛土管理のもと、再施工いただき、垂直度の高いテールアルメ工法が完成しております。



■写真1：撤去前（2018年1月）
壁面の一部にはらみが生じている



■写真2：再構築後（2019年7月）

1) 公益社団法人日本道路協会 道路土工 擁壁工指針 平成24年7月

2) 一般財団法人土木研究センター 補強土（テールアルメ）壁工法設計・施工マニュアル 平成26年8月

以上